

# 平成 18 年度事業報告・収支計算書

特定非営利活動法人 ACTION

## 会員の方々ならびに支援者・関係者の皆様各位

本年は当会にとって転機となった年でした。地域に根ざしたNGOとして活動を広げる為に武蔵境駅南口商店街に事務所を移転し「フィリピン雑貨チャリティーショップ」を開設。フィリピンの食材や雑貨を通してフィリピンの事を知ってもらおうと共に、国際協力に対して関心をもって頂けるようなお店作りを目指しました。地域に根付くという目標にはまだまだですが、本年の経験をもとに来年度は地域のボランティア情報センターとしての機能を兼ね備えた新しいお店として再出発する予定です。

武蔵野市と協働で実施している小学生向けの講座「土曜学校：世界を知る会」も昨年に引き続き、サンバレス州カスティリヤホス行政区バライバイ再定住区の小学校との交流を実施しました。土曜学校と学校との協働した授業作りを含めて、本年は100名の子どもたちがフィリピンの子どもたちと手紙交流・ビデオ交流を実施しています。

本年は日本とフィリピン友好50周年の年でもありました。日本フィリピンNGOネットワーク(JPN)が立ち上がり、11月にマニラにおいて日本・フィリピンNGOシンポジウムが開催されました。私はJPNの発起人としてシンポジウムの準備や事例紹介等に関わっていましたが、改めてフィリピンNGOの持つポテンシャルの高さ、そして今後両国の発展を担う為に日・比NGOで協働する事の必要性を感じた次第です。

また、柴田農園様によるジャイラホーム農園への協力、クリーニングの和光様の協力で進めている業務用クリーニング店開設等、地域の企業との連携も進んできています。それぞれの得意分野を活かして当会と企業・個人が連携し、フィリピンに貢献する取組みをより一層進めていきたいと思っています。

世界に目を向けると、イラクでの治安回復には目処がつかず、北朝鮮の核実験問題、中国の軍事費の増大、そしてフィリピンをはじめとした自然災害の拡大と様々な問題が存在しています。日本国内ではいじめや引きこもりをはじめとした社会問題は解決の兆しを見せず、多くの国民が不安を抱えて生活しています。

これまでのように日本側だけフィリピンが抱える問題に対して支援をするのではなく、日本の社会が抱える課題をしっかりとフィリピンの人々やNGOと共有をして、フィリピン側から日本に対して協力をして貰えるような関係を構築したいと考えています。これにより国際支援ではなく、お互いの出来ないところを補って発展していくという当会が考える「国際協力」の形に近づけると 생각합니다。日本とフィリピンを分けることなく、両国の活性化に貢献できるNGOとして職員一同努力していく所存ですので、より一層の皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願いたします。

平成18年1月20日

特定非営利活動法人ACTION  
代表 横田 宗

## 1 . 海外事業

# ジャイラホーム支援事業

実施場所：サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町

実施期間：平成18年1月～同年12月

### 施設整備プロジェクト

以前、ガールズドームと呼ばれていた女子寮の整備を昨年引き続き実施しました。この建物はジャイラホーム、Philippines Faith Mission Inc.(教会組織)、ACTION が事務所として使ってきた建物で、それ以前は幼稚園としても使用していました。2004年に当会で幼稚園・小学校専用の建物を設置したのを契機に老朽化していたガールズドームの改装を実施してきました。

本年9月に改装が完了し、建物のオープニングを終えました。現在は Philippine Faith Mission Inc. JIREH HOME, ACTION 三団体の事務所のほか、ミーティングルーム、図書室、パソコン室、ACTION 駐在職員用の居住室を備えています。今後はジャイラホームやACTIONの活動の拠点として活用されるとともに、こどもたち向けの日本語教室等としても使用する予定です。



\* 事務所棟オープニングの様子

### 壁設置プロジェクト

ホーム入口前にある州道が拡張整備されたため交通量が増えたことから、こどもたちの安全の為に道路拡張によって出来た川の洪水から施設を守るために、施設敷地と一般道を分けるための壁を設置しまし

た。来年度も引き続き壁の設置を進めていく予定です。



\* 設置中の壁の様子

### パキュット基金

ジャイラホームの運営は経済的に厳しく、数ヶ月もスタッフの給与が滞るという問題が頻繁に見られます。このスタッフの生活が安定せず、頻繁にスタッフが入れ替わるという状況は、こどもたち側にもその度に新たなコミュニケーションや適応を要求することとなり、こどもたちの育成にも影響が発生します。そこで、スタッフに安心して働ける環境を提供することで、より健全なこどもの育成が可能となることを目指し、本基金が始まりました。

本年度の本基金では、ジャイラホームのソーシャルワーカー1名・ハウスマザー6名・ドライバー1名の計8名のスタッフ給与の半額を支給することを目標とし、日本国内で主にジャイラホームワークキャンプ参加者を中心に、基金への協力者を募りました。

この結果、66名に本年度の本基金にご協力いただき、6ヶ月分の上記スタッフの半額給与を支給することができました。次年度以降も継続して協力者を募集し、安定化を目指します。

### クリーニング店運営準備

本プロジェクトは、東京都内でクリーニング店を展開されているクリーニングの和光様からご協力を頂き、ジャイラホームの運営資金を確保するために、フィリピンでクリーニング店を開始するというものです。クリーニングの和光様から多大なご協力を頂いて開始することとなった本件では、本年度は和光様から1,800万円相当の業務用クリーニング機材一式を現地にご提供頂き、設置作業を進めてきました。また、和光様の日本国内の店舗でも、有料化されたビニール袋の収益から本クリーニング店への寄付も頂くこととなりました。

本クリーニング店は来年度からのオープンを予定しており、ジャイラホーム内に設置する店舗での操

業を開始、この収益により、ジャイラホームの自己資金の確保を目指します。



\* ジャイラホームに届いた機材と、店舗への改装を予定している資材小屋

### 空手を通じた子どもたちの健全育成

敷地内に設置されている極真空手フィリピン支部ジャイラホーム道場では、現在15名の子どもたちが空手の稽古に参加しています。稽古日は火・木・土の週3日。代表の横田が指導するほか、フィリピン人指導員が指導を実施しています。本年春にはマニラにあるフィリピン航空内で開催された大会に参加し、二人の子どもが準優勝するなど良い成績を収めました。様々なバックグラウンドを持つ子どもたちですが、空手の修養を通して強い意思と規律、礼儀を学び社会に出て通用する人間となってくれる事を期待しています。なお、来年度4月には代々木第一体育館で開催される全日本青少年空手道選手権に招待選手としてジャイラホーム道場の生徒が出場する事が決定しており、子どもたちは日夜稽古に励んでいます。



\* 道場の面々

# 先住民族アエタ族支援事業

**実施場所：**サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落

**実施期間：**平成 17 年 1 月～同年 12 月

本年度はアエタ族支援事業 8 年目の年でしたが、本年 4 月に発生したバリウエット集落での問題により、ほぼ全てのプロジェクトが停滞するという状況となりました。土地問題でアエタ族と衝突したことがきっかけとなり、平地系住民の数家族が集落での放火や住民への威嚇を開始、結果として争いを避けたアエタ族住民約 200 名が平地へと避難することとなりました。その後、集落を占拠したこの平地系住民が集落内での略奪を開始、住民はもちろん、当会のプロジェクト資材・機材にも多くの被害を受けています。

このような状況から、当会で本年度予定していたプロジェクトも中断せざるを得ない状況となり、避難しているアエタ族住民の救援活動を主に実施してきました。

## 薬草利用によるアエタ族女性のライブリフッド確立プロジェクト

**実施場所：**サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落

**実施期間：**平成 18 年 1 月～同年 12 月

本プロジェクトは、1999 年から 2004 年まで取り組んできた、「薬草による初期治療手段確立プロジェクト」から派生して開始されたものです。昨年度からは集落アエタ族女性の組織 SAKAKA(Samahang Katutubo parasa Kalusugan=先住民族健康組合)が活動の中心となり、各家庭の所得向上を目指してハーブ石鹸作成を行っています。

本年度は当会としては、昨年度と同様に、資金的なサポートではなく、販路の拡大・組織運営や会計についての助言等フォローアップとしての活動を行ってきました。特に販路面での活動ですが、1 月から 3 月にかけて、フィリピンの商社と提携の準備を進め、3 月には提携書の作成も終えており、4 月から契約が開始される計画となっていました。

しかし、集落での問題の影響から、ハーブ石鹸作成自体を中断することとなり、この交渉も中断となりました。資器材も盗難の被害を受け、4 月から 10 月までは活動を中断していましたが、11 月より平地のスタッフ宅にて活動を再開しています。



平地で活動を再開したハーブ石鹸作成の様子(11月)

### 先住民族のための果樹植林・家畜飼育技術指導（21世紀の森プロジェクト）

実施場所：サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落

実施期間：平成18年1月～同年12月

アエタ族の青少年組織 KAB(Kabataan Action ng Baliwet=バリウエット青年の行動)による果樹園設置・山羊飼育を主な活動として、緑化やそれに伴う所得の向上、生業として将来活用する農業・家畜飼育技術の取得等を目的とした本プロジェクトは、昨年度末を持って、当会からの資金的なサポートを終了し、本年度からは KAB が独自で活動を継続していく最初の年でした。当会としては、具体的に、山羊の販路開拓への協力や組織運営や会計についての助言等フォローアップの活動を実施していく計画でした。

しかし、集落での問題発生を受け、活動を中断。果樹の被害は無かったものの、今後の KAB の自立の中心として期待されていた山羊飼育に関して、飼育していた山羊のほとんどが盗難に遭うという被害を受けることとなりました。そこで、KAB リーダー達と今後の活動の見直しを行い、集落到復帰後の計画作りを進めてきました。住民が集落到復帰後は、本活動も再開し、山羊も新たに購入して活動を再開していく予定です。

### アエタ族への薬樹栽培普及プロジェクト

実施場所：サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町

バリウエット・ブアグ・バナバ集落

実施期間：平成18年1月～同年12月

本プロジェクトは平成15年10月末より開始した、「アエタ族への薬樹栽培普及のためのモデルファーム設置プロジェクト」から継続し、現状で生業が限られ、所得も不安定な状況にあるバリウエット・ブアグ・バナバの3つのアエタ族集落において、火山灰でも育ち、販路が確保しやすいサンボン・ラグンディ等の薬樹栽培をアエタ族の新たな生業として普及し、持続的な生業の確保とそれに伴う所得の向

上を目的として実施しているものです。本プロジェクトは本年度のアエタ族支援事業の中心となるもので、本年度は薬樹栽培モデルファームの管理・販路の確保・住民間での栽培普及の3つの活動を実施していくことを計画していました。

しかし、集落での問題発生の影響を受けて、本活動も中断。栽培している薬樹に被害は出なかったものの、資器材の多くが盗難に遭うという問題が発生しました。当会スタッフも集落を訪問できない状況となったため、本プロジェクトでは、再開以降を視野に入れて、集落以外でできる活動、販路の確保について重点的に活動を実施してきました。フィリピンの企業数社との提携栽培の交渉を継続。その結果、集落での再開後に再確認・収穫した薬樹の微生物テストのクリアという条件はつきますが、2社との契約の準備が進んでいます。

また、問題の影響で停滞することにはなりましたが、日本の協力者の方からのご提案を頂き、日本の茶樹の栽培も開始。プロジェクト再開以降、日本から技術協力も受け、本格的な栽培を行うことが予定されています。

### バリウエット小学校補修プロジェクト

実施場所：サンバレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落

実施期間：平成18年2月～同年4月

集落にある公立のバリウエット小学校には、現在46人のアエタ族小学生が通学し、高学年・低学年と2つの教室に分かれて勉強しています。しかし、風雨や家畜の侵入等の原因から、校舎の老朽化が著しく進んでおり、改修が望まれていました。そこで、当会と小学校教師・集落の両親達の3者で改修を実施しました。当会は、学校の設備として予算が認可されていない周囲へのフェンス設置を担当し、2月のワークキャンプ時を中心に作業を行いました。

集落での問題発生前であったため、計画に影響を受けることも無く、2月から3月末にかけて作業を実施。順調に小学校へのフェンス取り付けが完了しました。しかし、続いて8月のキャンプ時に実施する予定であった校舎の補修に関しては、問題の影響を受けたため、実施を延期することとなりました。来年度8月に実施することが計画されています。



フェンスの取り付け作業を行うワークキャンプ参加者(2月)

## バリウエット住民救援プロジェクト

実施場所：サンパレス州サンマルセリーノ行政区サンラファエル町パラヤン集落

実施期間：平成 18 年 4 月～同年 12 月

4月の集落での問題発生を受けて、急遽実施したのが本活動です。避難を余儀なくされたアエタ族住民は、避難先では仕事も収入も無い状態が続きました。そこで、住民への直接の支援となる米・医薬品の配給と、住民が集落に復帰できるための行政との交渉の2つの活動を実施してきました。山間部での問題でアエタ族という状況から、当初は行政の支援もほぼ無い状況が続いていましたが、当会と住民のリーダーの頻繁な要請により、本年後半になってようやく行政の対応も始まり、現在は集落へ住民を戻す調整が行政内で行われています。本年度中の住民の集落への復帰という解決を目標に交渉を行ってきましたが、行政内での手続きの遅れ等があり、次年度まで持ち越す結果となっています。



避難先のパラヤン集落での食糧配給の様子(9月)

# ニニョスパグアサセンター支援事業

実施場所：オロンガボ市オールドカバラン町

実施期間：平成 18 年 1 月～同年 12 月

## 教育支援プロジェクト

聾啞者の自立支援を目指して活動しているフィリピンの NGO ニニョスパグアサセンターは、本年度はオーロラ地方に新規に施設を開設することとなりました。この影響から、本センターの支出も増加し、既存のオロンガボ市内施設での児童の教育費の捻出が困難となるという状況が発生しました。そこで、本年度はこのセンターの教育費用の一部に対し、当会で支援を実施しました。

具体的に、高校生 5 名（聴覚障害 1 名、視覚障害 4 名）・小学生 13 名（聴覚障害）・幼稚園 8 名（聴覚障害 5 名、視覚障害 3 名）の計 26 名を対象とし、文房具・教科書・制服や、点字用器具の支給を実施しました。また本センターの 2 名の手話の講師への給与に関しても支援を行いました。

センターの運営に問題が発生したため、急遽実施した本プロジェクトですが、上記の様な活動により、本センターで生活する児童たちが施設の問題の影響を受けることなく、例年と同様に学業を継続することが可能となっています。



新しい制服を着た生徒たち



数学の時間勉強をする生徒と  
アシスタントティーチャー

# ストリートチルドレン支援事業

実施場所：オロンガボ市及び周辺地域

実施期間：平成 17 年 1 月～同年 12 月

フィリピンの都市部に暮らす貧困家庭のこどものための奨学金事業

ストリートチルドレン支援を実施している現地 NGO タタッグ (Tayo Ay Tinig At Gabay = 私たちが声であり道しるべである) と提携して実施した本件は、本年度で 2 年目となりました。

具体的に、本件では入学や新学期に必要な各種登録費用・文具等学用品・出生証明書取得費・学力診断テスト受験費等、各種必要な経費の一部支給を行ってきました。また、奨学生や学校での定期モニタリングに加え、奨学生を取り巻く地域の組織化の促進も行うことで、これまで経済的な事情で就学できなかった貧困層のこどもたちの就学の機会を提供すると共に、これらの児童が持続的に学業を継続できる環境づくりも行ってきました。

こどもたちが就学できない大きな理由は経済的な事情ですが、仮に就学が可能となっても、家庭の理解が得られず就業することとなったり、授業内容についていけなかったり等、その他にも奨学生にはいくつかの課題が見られていました。そこで、タタッグとの協力により、本年度はモニタリングや地域の組織化を重点として取り組みました。この結果、支援した奨学生 500 名中 38 名の退学者がでた昨年度に較べると、本年度は 7 名まで減少するという成果も得られています。本件は今井記念海外協力基金から助成金をいただいて実施しました。



奨学生のモニタリングをするコミュニティーオーガナイザーと、先生、生徒、地域の代表



こどもたちに配る文房具の仕分けをするお母さんたち

## 地域改善プロジェクト

提携団体であるタタッグが支援する貧困地域内で、主にインフラ整備を実施して地域改善に貢献する本プロジェクトでは、本年度は 2 地域での活動を実施しました。

### オロンガボ市内カバラン町リバース集落改善

山間部に位置する本集落では、公共設備が十分に整備されていないことから、優先度の高い水道・歩道の設置を実施しました。作業は地域住民・ワークキャンプ参加者が担当しました。

#### 歩道の整備中



### オロンガボ市マバユアン町改善

提携団体のタタッグは、支援地域内で ECCD ( Early Child Care Development ) という就学前の児童への学習補助プログラムを実施していますが、地域によっては会場が無いために野外での活動となっていました。そこで、この ECCD が実施されている地域の一つであるマバユアンにおいて学習センターの整備を実施しました。作業はワークキャンプ参加者と地域住民が担当しました。



整備後の ECCD クラスでのさよならパーティ

## 国際ボランティア体験事業

参加者総数：176 名

### ジャイラホームワークキャンプ

平成 18 年 2 月 2 日～2 月 22 日 24 名：女子寮の改修に参加

平成 18 年 3 月 2 日～3 月 22 日 25 名：女子寮の改修に参加

平成 17 年 8 月 1 日～8 月 21 日 24 名：壁の設置に参加

平成 17 年 9 月 2 日～9 月 22 日 29 名：壁の設置に参加

本年度もジャイラホームにおいて各 3 週間、計 4 回のワークキャンプを実施し、女子寮の改修やホームステイプログラム、こどもとのイベント企画等を実施しました。

### アエタワークキャンプ

平成 18 年 2 月 23 日～3 月 15 日 12 名：小学校のフェンス新設に参加

本年度はバリウェット集落において 3 週間のワークキャンプを実施し、集落小学校へのフェンス親切に参加してもらった他、ホームステイや運動会、小学校訪問、文化講座等を実施しました。

### ニニョス・タタッグワークキャンプ

平成 18 年 2 月 28 日～3 月 20 日 23 名：歩道の設置に参加

平成 18 年 8 月 31 日～9 月 20 日 25 名：小学校就学前のこどもたち向けクラスの設置に参加

本年度春期に行ったワークキャンプでは提携団体であるタタッグの支援先リバースという地域でハイウェイから民家のある場所までの道の舗装と、水道整備を行いました。夏期のワークキャンプでは、貧困等の理由により幼稚園に通えていない児童への学習補助としてタタッグが行っている E C C D (Early Child Care Development) や、集会所に使う場所の整備を行いました。週末にはストリートチルドレンのためのエデュケーションに参加し、染物や、運動会、ゲーム大会等を行いました。またニニョスパグアセンターでは 3 週間の滞在を通してこどもたちと交流を深めました。

## 2 . 国内事業

### 1 地域活動

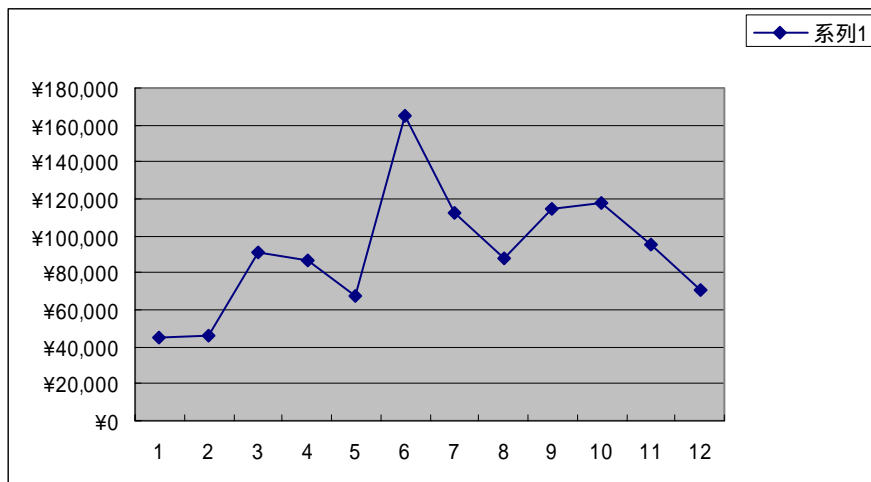
#### 1) チャリティーショップ

フィリピンと日本の地域と地域、市民と市民をつなげるというコンセプトを掲げ、2006 年 1 月 21 日に事務所に併設した「フィリピンチャリティーショップ」をオープンさせました。フィリピンのお菓子や食材、雑貨などをおき、売り上げはすべてフィリピンの事業地への寄付となります。寄付先は「孤児院 (ジャイラホーム)・アエタ族・盲ろう学校 (ニニョスパグアセンター)・ストリートチルドレン」の 4 つの中から、お客様に選んでいただきます。また、本年 4 月より、千葉県柴田農園様からいただいた野菜を店頭で販売しています。野菜の売り上げはすべてジャイラホームの農業支援の資金となります。

本年度 (2006 年 1 月～12 月) の売り上げは以下の通りです。

孤児院（ジャイラホーム）	¥ 205,580
先住民（アエタ族）	¥ 183,990
盲学校（ニニョスパグアサセンター）	¥ 238,315
ストリートチルドレン	¥ 300,625
野菜	¥ 168,552
<b>合計</b>	<b>¥ 1,269,332</b>

表：寄付先別売り上げ



グラフ：月別売り上げ

また、店舗内のスペースを利用してキッズステーション（小中学生向けの学習支援）を開設したり、小学生の夏休み期間限定のアエタ族文化体験教室などを開催したりと、地域の子ども向けのプログラムやイベントを実施しました。

## 2) 家族会員

本制度は、日本とフィリピンの市民と市民をつなげることによる相互の地域活性化を目標に、本年4月に開設したものです。入会すると、フィリピン・サンバレス州カステリヤホス町バライバイ再定住地区の家族と姉妹ファミリーとなり、文通やビデオレターなどを通して交流を持ちます。家族会員特典の目玉として、「キッズステーション」を開設し、家族会員の小中学生向けの個別学習指導を行なっています。本年度は三鷹市の一家族から入会があり、小学校5年生の男の子がキッズステーションに参加しています。

## 3) 武蔵野市教育委員会主催「土曜学校～世界を知る会（小4～6年コース）～」

本事業は武蔵野市教育委員会から委託を受けて実施するもので、当会は本年5月から12月にかけて全11回を担当しました。武蔵野市内の小学校に通う小学生24名が集まり、それぞれフィリピンのバライ

バイ再定住地区の小学校に通う小学 4~6 年生とパートナーを組み、ビデオレター交換や文通などの交流を行ないました。当会の学生 5 名もボランティアスタッフとして活躍しました。また、会の最後には集大成として国際協力機構の JICA ネット（インターネット回線を利用したテレビ会議システム）を利用し、リアルタイムのコミュニケーションを実現しました。小学生からは「フィリピンの子たちはみんな元気でびっくりした」「これからも交流を続けたい」などの感想がありました。

#### 4) 境南達人帖

当会が事務所を置く商店街の活性化を図り、昨年の事務所移転以降に進めてきたのが本活動です。「顔の見える商店街」を目指し、当会が加盟する商店街組合加盟店を中心に、地域の「達人」にインタビューをしました。現在はホームページで紹介していますが、近々冊子にまとめ、地域の方々に配布する予定です。

## 2 学校教育との協働授業実践 / 学生ボランティア派遣

本年度は以下の学校で協働授業を実践しました。また、必要に応じて学生のボランティアを派遣しました。各学校では、代表による講演の後、学生と子どもたちが少人数のグループをつくり自分たちのフィリピンでの経験や将来の夢などを語り合いました。

## 3 講師派遣

フィリピンでの活動・経験を日本の地域社会に還元するため代表の横田を講師として各種セミナー、講演会に派遣しました。

～平成 17 年度講師派遣実績～

武蔵野市国際交流協会「教員ワークショップ」リソースパーソン

嘉悦大学（NGO 論・公共政策論）

亜細亜大学（ボランティア論）

中央大学 F L P（国際協力講演会）

山梨県立大学（国際協力論）

東村山西高校（総合学習）

武蔵野市土曜学校「世界を知る会」

町田市立第一中学校（選択英語・通年）

八王子市立七国小学校（総合学習）

江戸川区立西葛西中学校（選択社会科・通年）

八王子市立横山中学校（総合学習）

八王子市立四谷中学校（総合学習）

他

## 4 ワークキャンプフォーラム（7月1～2日、10月21～22日）

本事業は国立中央青年の家（静岡県御殿場市）が主催するもので、当会は運営委員会として参加しています。本フォーラムでは青少年育成の画期的な手法として注目される「ワークキャンプ」の社会的認知度を上げることを目標としています。本年度は7月と10月の2回、国立中央青少年の交流の家を中心として当会始めワークキャンプを実施しているNPO・NGOが一堂に会し、ワークキャンプフォーラムを開催しました。当日は当会のワークキャンプ経験者も多く参加しました。

## 5 ボランティア派遣

### 1) 朝陽学園ボランティア派遣

昨年度に引き続き本年度も三鷹市にある児童養護施設「朝陽学園」へボランティア派遣しました。ボランティア派遣項目は以下の通りです。

- ・週末遊びボランティア（通年）
- ・スキー教室付き添い（3月）
- ・岩井海水浴場付き添い（7月）
- ・こども祭り（9月）
- ・朝陽学園バザー（11月）

### 2) 太陽の家ボランティア派遣

- ・納涼祭（7月）
- ・餅つき大会（1月）

## 6 国際協力イベントへの参加・出展

### 1) グローバルフェスタへの参加（9月30日・10月1日）

9月30日・10月1日に日比谷公園で開催された本イベントにブース出展しました。本年度は「ACTION PASSION CONNECTION ~こどもの笑顔がぼくらの架け橋~」をキャッチコピーとし、ワークキャンプの紹介、フィリピンのこどもたちの映像上映などを行いました。

### 2) 武蔵野市国際交流協会「むさしの国際交流まつり」（11月11日）

本年度は、地域住民に「フィリピンチャリティーショップ」の存在を知っていただくことを主な目的とし、ショップの人気商品（ドライマンゴー、バナナチップ、マンゴージュースなど）を販売しました。当日は「先住民族から学ぼう」と題し、藤のプレスレットを作成するワークショップやアエタ族の使用するシャンプーや農などの展示を行いました。

### 2) ワンワールドフェスティバル（2月4~5日）スマイルフェスタ（12月10日）出展

学生企画「ACTION関西」が主体となり、関西地区の国際協力イベントにブース出展をしました。ワンワールドフェスティバルでは、アエタ族のこどもに贈る絵本作りのワークショップを行い、出来上

がった絵本をACTION関西メンバーが実際に現地へ持参しました。現地で撮った写真は、絵本作りの参加者にお礼とともに送りました。スマイルフェスタでは、参加型のブース作りを心がけ、「笑顔になる瞬間」を書いたメッセージを集めた「笑顔の樹」やフィリピンのこどもたちの写真をもとにフィリピンでの心に残った出来事を語るといったワークショップを開催しました。

## 7 学生企画

### 1) ニニョス展

本企画は、ニニョス・タタッグワークキャンプに参加した学生が中心となり、ニニョスパグアセンターで出会ったこどもたちの写真展を開催するものです。ニニョスパグアセンターでのこどもたちの生活を伝えるのと同時に、「障害を障害と思わせない」ようなこどもたちの笑顔を通し、遠く離れた日本でも「希望」を感じてもらうこと、また、センターで手術を待っているこどもたちのために、少しでも手術費を集めることを目的とします。本年度は、以下の期間で開催しました。

2月 アジアン料理居酒屋「わっくら」(東京都小金井市)

6月16~30日 ACTIONチャリティショップ内にて

### 2) 絵顔展

本企画は、当会のワークキャンプに参加した学生が、それぞれの事業地で出会ったこどもたちの写真や「夢」を描いた絵、映像などの展示会を開催するものです。こどもたちが夢に向かって元気に過ごす姿や絵、映像を見て、来場者に「何か」を考えてもらうきっかけ作りを目的とします。本年は以下の日程で開催しました。

11月1日~5日 武蔵野商工会館1階地域情報コーナー

### 3) INFINITY (インフィニティ)

本企画は、アエタワークキャンプに参加した学生が中心となり、バリウエットのこども向けの英語の補助教材を制作するというものです。アエタのこどもたちに学ぶ楽しさを教え、幼いころから異文化と接触し将来の夢や就職の幅を広げる機会を提供することを目的としています。本年は、北アメリカの地理教材とバリウエットのゴミ問題を扱った絵本を制作しました。

### 4) ジャイラっこにバースデーカードを

本企画は、ジャイラホームワークキャンプに参加した学生を中心に、ジャイラホームのこどもへのバースデーカードを作成するというものです。遠く離れた日本からでも、こどもたちに「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちを伝えることを目的とします。本年は毎月作成し、ジャイラホームに郵送しました。

### 5) ACTION 関西

本企画は、当会のワークキャンプに参加した関西在住の学生が中心となり、関西でACTIONの活動を伝えることを目的に活動しているものです。本年は、ワンワールドフェスティバルやスマイルフェス

タなどのイベントへの出展やワークキャンプ説明会を実施しました。